

ごみゼロネット推進会（第7回）議事録

開催日： 2009年(H21年)3月16日(月)10:00～12:00

場所： ウエスト(新小金井駅前)

出席者： 平林、加藤、大橋、加賀谷、伊藤、武田、桐生(作成)

議題：

1. 「小金井市のゴミの現状と減量リサイクルについて」説明(加藤)

2009/3/7に公民館本館で行われた「市民がつくる自主講座」での講演内容の重要性から、要点を説明・補足した。要点は2009/3/9付け「加藤了教氏・小箱哲氏講演会記録」(先日「ごみゼロネット推進会MLにて各位に配布済み)に有る通り。新しい新聞記事2件の紹介。国分寺市は昨年1/19「広域支援処理覚書」に明記してある通りの対応をしている。東京都も調停に乗り出したが、国分寺市に迫られて小金井市3/12に出した回答は従来通りの全く進展がない内容であった。この結果に星野市長が市民に小金井市寄りではないかと迫られて困っている。

2/Eの期限に回答出せなかったことに対して、稲葉市長は1ヶ月間10%の減給を申し出た。

東京都は調停者の役割に徹し、国分寺市は傍聴者の立場で職員を出す(市長は出席しない)という。

自分としては単独処理に踏み切ってはどうかと考える。場所は一ヶ所は貫井の中間処理場、もう一ヶ所は栗山公園の北側。栗山公園は15,900㎡あり、市長の決断で実行可能。以下は処理方法についての解説要約。

(1) 「生ごみ」と「紙資源ごみ」を分別回収することが大切。

(2) 非燃焼の「炭素化処理」であれば、4,200㎡(二枚橋の小金井市持分)あれば1階に「生ごみ」対応の「亜臨界水処理」、地階にその水処理施設、2～3階に「炭素化処理」施設を設置するプランが可能。この案に与野党の多数の議員が賛同している。

(3) 「生ごみ」の処理には、①「減容して炭素化」、②「亜臨界水処理して水処理」、③「サンライフ等の処理業者に委託」などの選択肢がある。

(4) 「紙資源ごみ」の処理には、①王子製紙に再生紙用として提供、②「炭素化」が有りうる。王子製紙では「紙おむつ等の汚物」「カーボンペーパー等難処理物」以外の紙資源ごみなら受け入れ可能。プラスチックは巻き取りで、無機物・金属類は沈澱で自然に分離できる。分別技術は長足の進歩。

(5) 「生ごみ」の集め方は、①狭山市のように保管中に腐敗しない「抗酸化バケツ」に入れて出す、②「広島方式」で新聞紙に包んで出す、があり得る。「広島方式」は新聞紙にごみの水分を吸収蒸散させて減容させ、腐敗を防いでおり、他市より少ない小金井市民の出す「生ごみ」420g/日より、更に少ない380g/日になっている。

「生ごみは処理業者に委託」「紙資源は王子製紙に提供」となれば、それでもどうにもならないごみ(例：運動靴)だけ

「炭素化処理」という選択肢もあり得る。

2. 高速減圧発酵処理、他について(平林)

●新杉田でベンチャービジネスが実証試験を行っている「高速減圧発酵処理」は「生ごみ」を2時間くらいで水分16%まで減容できる。有機質は見る見る減容し、無機質は残るので、前分別は不要である。臭いは殆どなかった。

(原理についての説明は省略)ここでも自治体から「生ごみ」の提供が受けられず、間欠的にしか運転できていない。

●「紙資源」は放火の恐れがあるので、保管方法の慎重な検討が必要。

●(武蔵小金井駅近くの)エアーズシティは独自の分別システムを運営しており、「生ごみだけを小金井市が収集」

している。このような独自のごみ分別を行っている例は他にもある。

●武蔵小金井駅南口前のプラウドタワーは「生ごみ」はディスポーザで粉碎、当所独自の水処理施設で分解・放流している。ディスポーザが回転する時だけ別の流路に流して独立水処理する実施例は最近増えつつある。

3. 結論

(1) 非燃焼処理が一般の市民に理解し易いイラスト入りの説明ビラを作って配布・啓蒙したい。

- (2) 「生ごみ」と「紙資源ごみ」の分別回収の具体的問題について検討・推進したい。
 - (3) 「高速減圧発酵処理」と機械的乾燥の「オカドラ」（両者は地理的に近い）の見学会を早く実行したい。
- 以上

次回打合せ 日時：4月20日（月）10：00～12：00 / 場所：ウエスト